

住民健診における眼底検査の現状

○菅野健一¹⁾ 桐生理江¹⁾ 大谷有美¹⁾ 宍戸幹夫¹⁾ 佐藤真也¹⁾ 鈴木順造¹⁾ 菅野幸紀²⁾

1) 公益財団法人 福島県保健衛生協会

2) 福島県立医科大学医学部眼科学講座

(はじめに)

我が国の健康問題の一つである視覚障害の早期発見に努めることは重要である。

眼底検査は眼底の網膜血管を直接観察できる血管評価法として循環器疾患のリスク層別化に用いられ、また眼疾患の早期発見にも有用とされている。

今回、当協会での住民健診における眼底検査の現状について報告する。

(対象と方法)

2019年度から2021年度の3年間で住民健診を受診した40歳以上の280,815名のうち、眼底検査を受診した222,496名を対象とした。

年代別の受診率、要精検率、要精検の所見内訳、および眼底検査が詳細検査として実施される割合について年次推移を調べた。

また、両眼撮影での有所見者には両眼共に所見があるか集計を行った。

さらに、2021年度に要精検となった所見について詳細検査基準該当者と非該当者を比較し、ロジスティック回帰分析のカイ2乗検定を行った。

(結果)

1) 受診者数：2019年度と比べて2020年度に減少がみられたが、2021年度では回復傾向が認められた。

2) 受診率：平均で8割程度を推移し、60歳代では9割を超えていた。

3) 要精検率：年齢に比例して高くなる傾向を示した。

4) 要精検の有所見率：各年度とも緑内障が最も多く7~9%、中間透光体混濁、黄斑部異常が5~7%、他の所見は0~3%で推移していた。

5) 詳細検査該当率：眼底受診者の3割程度を推移し、年齢に比例して高くなる傾向を示した。

6) 両眼撮影での有所見者のうち、「片眼のみ」所見ありが約2割みられた。

7) 2021年度の詳細検査基準該当者と非該当者の比較では、要精検率で有意差を認めた。

また、各所見ごとの有所見率では、(Wong-Mitchell分類)中等度病変、(改変Davis分類)単純網膜症、(改変Davis分類)増殖前網膜症、糖尿病網膜症の疑い、網膜血管障害、黄斑部異常、中間透光体混濁で有意差を認めた。それ以外の所見では有意差を認めなかった。

(考察)

住民健診での眼底受診率は8割であった。

また、眼底受診者の3割が詳細検査で、残りの7割が自治体による付加で検査を実施していた。

両眼撮影での有所見者のうち、「片眼のみ」所見ありが約2割も存在することから、受診者全員への両眼撮影が有用と推察された。

また、詳細検査基準該当者と非該当者の比較では、血糖値や血圧の影響を受ける所見において有意差を認めた一方、緑内障や加齢黄斑変性等には有意差を認めなかった。

(まとめ)

眼底検査は、血圧や血糖値の有所見者では高血圧性眼底変化や糖尿病網膜症の有所見率が高いことから循環器リスク評価や、詳細検査該当者に限らず広く検査を行うことで、緑内障や加齢黄斑変性などの眼疾患で早期発見に有用であることが示された。

今後も眼底検査の受診率向上に、より一層取り組んでいきたい。